本会議での質問と答弁

本会議での質問と答弁は、要約したものを掲載しています。
詳細は、2月下旬以降、各市立図書館において会議録でご覧いただけます。
また、市議会のホームページの会議録検索システムでも3月中旬ごろから閲覧できます。

本会議では、各会派から次の16人の議員が質疑・質問を行いました。（発言順。掲載記事の順番とは関係ありません。）

大石　正信	（日本共産党）
森　浩明	（ハートフル北九州）
吉河　節郎	（公明党）
西田　一	（自由民主党）
日野　雄二	（自民市民クラブ）
井上　真吾	（日本共産党）
八記　博春	（日本共産党）
宮﨑　吉輝	（市民の声）
村上　幸一	（自由民主党）
戸町　武弘	（自民市民クラブ）
本田　忠弘	（公明党）
山本　真理	（ふくおかネットワーク）
長野　敏彦	（ハートフル北九州）
野依　謙介	（日本共産党）
奥村　直樹	（ハートフル北九州）
三宅まゆみ	（ハートフル北九州）

本市の魅力をPRしよう！

議員　社団法人日本青年会議所の全国会員大会が、平成24年度に本市で開催される。コンベンションとしての効果等が期待されるが、同大会に対してどのような期待を持ち、どのような支援を考えているのか。

市長　同大会の招致の決定は、厳しい経済状況にある本市にとって大変明るい話題であり、ビジターズ・インダストリーの振興によるにぎわいづくりに力を入れている本市の魅力をアピールできる絶好の機会と考えている。

また、同大会は、毎年1万5000人を超える青年経済人が参加しており、まちのにぎわい創出や経済効果も大いに期待できる。

本市としては、これからの3年間、北九州青年会議所と連携をとって、同大会の招致が最高のイベントとして成功するよう、市の魅力づくりに努めるとともに、同大会の成功に向けて最大限努力したい。

市長の退職金条例について

議員　市長の退職手当の支給の特例に関する条例は、市長の現任期の退職金を支給しないとする内容にとどまっている。これは、市長の退職金制度は廃止するとしたマニフェストに反しないか。また、不支給の理由が、市長の退職金は多額で市民感覚からかけ離れているというのであれば、市長以外の特別職である副市長等の退職金も見直すべきではないか。

市長　市長の退職手当は、市長としての功労に対する報償、他の政令市との均衡等といったさまざまな観点から措置されている。従って、退職手当を恒久的に廃止することについては、慎重な議論が必要である。今回の条例の内容は、「市長退職金は廃止します。」としたマニフェストにおける私の思いに反するものではない。

また、選挙公約を掲げて選出された市長と就任形態が異なる副市長等の特別職の退職手当については、在職期間の功労に対する報償として支給すべきであり、その水準についても、他の政令市との均衡等から妥当なものと考えている。

最低限の医療水準の確保を！

市立若松病院の民間への譲渡

議員　市立若松病院が民間に譲渡されるとの方針が発表されたが、若松区の中核病院として必要とされる最低限の医療水準を譲渡後どのように確保するのか。

また、譲渡先の選定が公募型プロポーザル方式となったのはなぜか。

病院局長　地域医療に対する責任を果たすためには、地域にふさわしい譲渡先を選定する必要がある。

そこで、医療関係者や地元関係者、学識経験者等で構成する検討会を立ち上げ、病院運営に対する理念や基本方針、診療科目などの診療内容の計画、医師の確保策などの管理運営体制等について、譲渡先が、地域医療を維持する上で必要な要件を備えているかを審査してもらう。

なお、譲渡先の募集に当たっては、民間の医療法人等のノウハウを生かした提案をしてもらい、最もふさわしい団体と契約することができる公募型プロポーザル方式が望ましいと判断した。

バリアのないまちづくりを目指して

国際車椅子バスケットボール大会

議員　北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会の開催により、多くの選手やチーム関係者が本市を訪れるが、同大会の関係者に対して、交通機関、宿泊、飲食等にかかわるバリアフリーについての情報を提供しているのか。

保健福祉局長　この大会は、本市がバリアのないまちづくりを進めていく象徴として、平成15年から毎年開催しており、国内外から200名を超す選手やスタッフが訪れる。このうちチャンピオンズカップの4チームには、大会実行委員会が宿泊や食事、移動手段等を全面的に手配して案内している。

また、全日本ブロック選抜大会に出場する選手にも、大会実行委員会が、車いすを利用する人が宿泊しやすいホテルを紹介するなど、問い合わせに応じた情報を提供している。

この大会の趣旨であるバリアのないまちづくりの観点から、障害のある人それぞれに応じた情報提供を行っていくことは重要であると考えており、今後さらなる充実に努めたい。

北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会

認可保育所における保育の質の維持を！

議員　政府が検討している認可保育所の基準の要件の緩和は、保育サービスの質を後退させると考える。また、仮に、要件が本市の裁量に委ねられた場合、現状の維持が最低限の義務であると考えるが、併せて見解を尋ねる。

子ども家庭局長　現在、全国すべての認可保育所では、児童福祉法に基づく児童福祉施設最低基準により保育を行っているが、地方分権改革推進委員会の第三次勧告では、この基準が見直しの対象とされている。

これを受け、厚生労働省は、原則として最低基準をすべて地方自治体の条例に委任するものの、入所児童数に応じた保育士等の配置基準など、保育の質等に深刻な悪影響が生じかねないものについては、全国一律の最低基準を維持するという方針を示した。

こうした基準の緩和により、地域の特色を生かした基準が策定できる一方で、自治体の設定する基準次第では保育サービスの質の低下も懸念される。

本市としては、今後の国の動向を見極め、現状の保育の質が低下することのないよう努めていきたい。

旦過市場の浸水対策を！

議員　平成21年7月の大雨により、濁流が神嶽川に逆流し、旦過市場が浸水した。北九州の台所である同市場は、平成11年にも浸水しており、10年に一度大雨であふれることについて、市長はどう受け止めているのか。

市長　旦過市場では、河川の上に店舗が張り出していることなどにより、現状のままでは、河川改修工事に着手できない状況である。

一方で、同市場では、再開発事業を進める動きがある。設立された準備組合は、再開発事業と神嶽川の整備を一体的かつ早急に進める必要があると呼びかけており、再開発事業の来年度の都市計画決定を目指している。

市としても、河川改修は、河川上の店舗の移転先を確保できる再開発事業と一体となって進めることが最良の方法であると考えている。

今後も、旦過市場が治水上安全な地区となるよう、河川改修と再開発事業のできるだけ早い着手に向け、準備組合に対し、積極的な支援を行っていきたい。

スポーツの選択肢を広げよう！

スケートボードパークの整備

議員　スケートボードは、若者だけではなく、子どもから大人まで親しめる幅広いスポーツとなっている。

市民が楽しむスポーツの選択肢を広げるためにも、市の土地の活用等により、スケートボードパークを整備してはどうか。

市長　政令市における公設のスケートボード施設は、横浜市など6市に10カ所設置されている。これらは、本格的な施設と気軽に練習ができるポケットパーク的な施設に分かれており、整備費用も700万円から1億7000万円と相当な幅がある。

このため、本格的な施設の整備となると多額の整備費が想定され、厳しい財政状況から困難だが、練習ができる程度の施設であれば、比較的安価に整備できるのではないかと考えている。

周辺住民への騒音の影響など非常に大きな課題はあるが、スケートボードの練習もでき、誰もが多目的に利用ができるポケットパーク等の整備の可能性を検討したい。